

シリーズ「野洲川とその周辺の生き物と人との関係を考える」

主催：守山市立図書館、びわ湖の森の生き物研究会

県下最大の河川である野洲川は、上流の鈴鹿山地の森と琵琶湖をつなぎ、豊かな生き物を育んできました。このような野洲川とその周辺には、生き物と関わって生きる人びとの生活がありました。生き物と人びとの暮らしがどのように関わってきたのか、そしてこれからの共生について考えてみたいと思います。



* 開催場所は、守山市立図書館です。できるだけ公共交通機関をご利用ください

* 問合せ先：守山市立図書館
〒524-0022 滋賀県守山市
守山5-3-17
電話：077-583-1639

○第1回 6月26日(日) 14時～15時30分 高橋春成

「野洲川下流域の獣(けもの)たち-ウサギ、キツネ、タヌキからアライグマ、ハクビシン、ヌートリアまで-」

野洲川とその周辺には、かつてキツネ、タヌキ、ウサギなどがいて、学校行事としてウサギ狩りが行われ、キツネやタヌキにまつわる昔話も多く残っています。ところが、今日ではアライグマなどの外来種が増えてきました。

○第2回 7月31日(日) 14時～15時30分 藤岡康弘

「野洲川を回遊するビワマス」

野洲川では、水かさが増すとアメノウオと呼ばれたビワマスが琵琶湖から遡上し、アメノウオご飯は人びとの御馳走になりました。ビワマスを取りまく現代のいろいろな問題を知り、ビワマスが棲める環境づくりの大切さを学びます。

○第3回 8月21日(日) 14時～15時30分 寺本憲之

「野洲川の堤防付近で飼われていたカイコ」

かつて野洲川の堤防周辺の畑では桑を育て、カイコを飼い、繭は長浜の方に売られていました。産業として生き物を飼育したのです。脱皮して成長し、絹糸を吐いて繭をつくるカイコの生態や繭から絹糸を取る作業も学びます。

○第4回 9月4日(日) 14時～15時30分 山崎 享

「野洲川上流域の空の王者-イヌワシ・クマタカ-」

野洲川の上流にはびわ湖の森があり、イヌワシやクマタカが棲んでいます。猛禽類は天狗伝説にもつながり、鷹匠による狩りにも使われてきました。源流域の森や自然の健全性を維持するための猛禽類の重要性について考えます。